

クムラン文書「感謝の歌（ホダヨート）」 における「私」

勝 村 弘 也

1. はじめに

1. 1. いわゆる死海文書に含まれるすべての文書が、クムラン教団独自の著作であるわけではない。聖書テキストが多数発見されていることから、このことは明らかであろう。写本がいつどこで作成されたのか、それがどのような思想傾向を持つのかに関しては、それぞれの文書について慎重に検討する必要がある⁽¹⁾。クムラン第1洞穴から発見された「感謝の歌（ホダヨート）」の場合は、最初から一貫して、クムラン教団において作成された文学作品であると考えられてきた。特に研究の初期においては、この作品の著者として、この教団の創始者として推定された「義の教師」がしばしば問題になった⁽²⁾。イエレミアスなどが考えたように、もしも義の教師が感謝の歌に含まれる相当数の作品の著者なのだとすると、このような作品には彼の思想が表現されていることになるし、作中にしばしば登場する「私」は、義の教師本人だということになる。そこには彼の自己意識が表現されていることになるだろう⁽³⁾。

1. 2. 用語法などから判断すると、たしかに感謝の歌は全体としてクムラン的な作品であると思われる。しかしながら、感謝の歌にはどこにも直接的な形で義の教師は登場しない。イエレミアスが義の教師の作品としているものを見ると、そこには「私」や「共同体（ヤハド）」に敵対する「悪しき者」「ベリヤアル」「悪党ども」「欺瞞の仲介者」等、実に様々に表現されている敵が登場している。作中のこのような敵の存在から、別の文書に現れる「義の教師」をそこに無理に読み込んでいるだけなのかも知れない。「私」の方

はどうなっているのかと言うと、この表現は全篇に及んでいる。感謝というのは、要するに「私」の感謝のことであるから、当たり前と言えはそれまでであるが。本論考においては、一方では作品集に登場する「私」を、義の教師と見なすことが可能なかどうか、あるいは義の教師本人の作品と想定してよいような作品がいくらかでも含まれているのかどうかという議論を、ある程度視野に入れながら、感謝の歌の全体にわたって「私」がどのような存在として問題になっているのかを検討しようとする。

1. 3. 感謝の歌における「私」は、創造主としての至高神、天使たち、「ひと」として語られる人間存在、ヤハド共同体、神に従順な「僕」、共同体に敵対する邪悪な者たち等との複雑なネットワークの中に置かれている⁽⁴⁾。そして、これらの存在者は、各作品の著者によって様々な宗教的価値付けを受けていることになる。したがって「私」が、このようなネットワークの中でどのように位置づけられ、評価されているのかを作品ごとに精密に検討しなければならないだろう。

1. 4. 感謝の歌を通読して気付くのは、この作品集の背後に立つ「著者」が一人ではないように思われることである⁽⁵⁾。たしかに、用語法の観点から見ると、感謝の歌全体を通して一定の統一性は認められるとしても、著者の自己意識の観点からするとそこにはかなりの多様性ないし変化が見られる。例えば、「私」と「悪しき者」等の敵との関係について見ると、その捉え方は決して一様ではない。ここでこの巻物の復元の問題に少し触れておく必要がある。研究の初期においては、毀損の激しい巻物の復元に関して一定の方法のようなものはなかった。考古学者が壊れた陶器を復元する時のように、ただジグソーパズルを解くようにして各断片を繋ぎ合わせていただけであった。巻物が途中でちぎれている場合、どれが前に来て、どれが後に来るのかを判断する決定的な基準はなかった。したがって、最初スケニクによって配列された結果としての感謝の歌の各欄のナンバーは、あくまで暫定的なものである⁽⁶⁾。その後、破損を被った巻物の復元方法が、ステージマン等によって確立されるようになり、感謝の歌の各作品の配列順序がほぼ決定された⁽⁷⁾。マルチネ版に付けられた各欄のナンバーは、このような新しい配列に

従っている⁽⁸⁾。問題は、古い配列で読む時の印象と新しい配列で読む時の印象が、相当異なることである。おおよその見当で言うと、第3欄（第1—2欄は失われたと判断されている）から第9欄あたりまでと、第10欄以下の間には一定の切れ目が存在するようである。さらに第20欄あたりから後の部分が、中央部と比較して雰囲気が相当異なっている⁽⁹⁾。しかし巻物の後の方は毀損が激しく、復元の仕方には議論の余地があると思われるので、今回は特に必要がない限りひとまず考察から除外することにする。

1. 5. 結論を先取りする感じになるが、感謝の歌の場合にも正典の詩篇の場合と類似した編集作業が行われた可能性がある。この作品集の背後に単純に義の教師のような一人の著者を想定するのは、無理なように思われる。もちろんこのことは、そこに義の教師の作品がいくつか含まれている可能性を排除はしない。この論考においては、第9欄まで（これを便宜的に「第一集」とする）と第10欄以下（これを便宜的に「第二集」とする）に一定の切れ目が存在すると仮定し、このような仮説に基づきながら、今回は特に「第一集」にみられる著者の自己意識について考察する。翻訳の底本には、マルチネ版の印刷テキストを用いるが、可能な限りCD-ROMで公刊されている写真を参照した⁽¹⁰⁾。特に虫食いがどこに生じているのかに関しては写真と照合した。またこれに関連して、マルチネの行っている推読部分に関しては、各種の翻訳との比較を行って慎重に考察した。この際、もっとも重要視したのは、ワイズ／アベッグ／クックの3名による共訳である⁽¹¹⁾。この共訳とマルチネの読みが一致している場合には原則としてこれを採用した。なお、必要以上の煩雑さを避けるために私訳に付ける注釈は、最低限のものにとどめる。なお、訳文に用いた記号については、以下のようになっている。

- ・・・ 虫食いが存在することを示す
- [・・・] 一語欠損していると推定されるが推読を断念する
- [] 推読部分であることを示す
- () 翻訳の都合上、補った語であることを示す

2. 「第二集」に関する予備的考察

2. 1. ここでは「第一集」に関する考察に入る前に、「第二集」から比較的テキストの保存状態の良い2つの作品を例示し、これらの作品において「私」がどのような形で問題になっているのかを簡単に見ておく。しかしこれはあくまで予備的な考察であることをことわっておく。第二集に関する精密な考察は別の機会にゆずりたい。

2. 2. 第10欄20～30行：この詩篇は、テキストがほぼ完全に残っている珍しい例である。詩の構成の仕方も明瞭であって、クムラン共同体の詩作の技法を見る上でも重要な資料となっている。詩の構成が分かるように適宜改行した¹²⁾。

²⁰主よ、私はあなたに感謝します。

まことに、あなたは私の魂を生命の袋の中に置かれました。

²¹あらゆる滅びの罨から、あなたは私を守られました。

凶暴な者たちが私の魂（＝命）を狙いました、

私が²²あなたの契約に²¹すがっていた時に。

²²そして彼らは、空疎な集い、ベリヤアルの会衆。

彼らは知らないのです、私の地位があなたからのものであることを、

²³また、あなたの慈愛によって私の魂をあなたが救われることを、

私の歩みが、あなたからのものであることを。

そして彼らは、・・・ 彼らは²⁴私の魂を²³襲いました。

²⁴それは、邪悪な者たちの裁きにおいて、あなたを栄化するためです。

また、人の子らに対して、私を通してあなたの力強さが示されるためです。

²⁵まことに私の立場は、あなたの慈愛によります。

そして、私は言いました、
勇士たちが私に対して陣を敷いた、
彼らのあらゆる²⁶戦闘の武器を²⁵帯びて私を囲んだ。
²⁶そして彼らは必殺の弓矢を放った。
そして火のついた投げ槍の炎が、木々を焼き尽くす。
²⁷そのどよめく音は、大水の轟のようだ。
多数の者を滅ぼすためには、雹と雷雨。
²⁸その波浪の高まる時に、蝮と空疎が²⁷星座（？）にまでも碎け散る。

²⁸しかし私は、私の心臓が水のように融けるときも、
私の魂は、あなたの契約に固く付きます。
²⁹しかし彼らは、私に広げた網が、彼ら自身の足を捕らえたのです。
私の魂（＝命）のために彼らが隠した鳥取り網、その中に彼らは陥りました。
しかし私の足は、平地に立っています。
³⁰彼らの集団から（離れて）、あなたの名を寿ぎましょう。

2. 3. 第10欄20～30行への注釈：20行目「生命の袋の中に」と同じ表現は、サムエル記上25章29節にある。ここでも敵に命を狙われる状況のもとで、神の守りがあることを述べている。「私の魂」が、神の「財布」の中に入れられるというわけである。22行目「集い」の原語はソード。この語は頻繁にクムラン共同体に関連して用いられる。この場合は「評議会」「会議」等と訳す。「ベリヤアル」は、旧約では「役立たず」「ならず者」の意味で用いられているが（サムエル記上2章12節、箴言16章27節等）、感謝の歌では、クムラン共同体の敵対者に対してほとんど術語的に用いられている。26行目後半は、「投げ槍の炎は、木々を焼き尽くす火の中に」とも訳せる。27行目前半は、エレミヤ書51章55節とよく似ている。後半の「雹と雷雨」は、イザヤ書30章30節からとられた表現で、神が怒りをもって審判を下す場面で用いられている。「星座」と訳したマゾールの語義についてはよく分からない。「投石機」とする説もある。28行目の「蝮」は、「邪悪」を象徴する表現として、

第11欄でも3回用いられている。29行目「私の足は、平地に立っています」は、詩篇26篇12節からとられた表現。イザヤ書40章3～4節をも下地にした表現であろう。パレスチナは傾斜地が多いから、平地や平野は特別な意味を持つ。神に守られた安全な場所の比喻となるのである。

2. 4. 第10欄20～30行における「私」：冒頭の「あなたは私の魂を生命の袋の中に置かれました」の句が示しているように、ここでは私は、神の保護のもとに置かれていて安全である。私の敵は、過去において私を襲い、生命を狙ったことがあるばかりではない。現在もなおひとつの勢力として存在しているようである。この敵対する勢力は「彼ら」「空疎な集い（ソード）、ベリヤアルの会衆（アダト）」と呼ばれる。この作品で特徴的なのは、確固とした「私の地位（m'mdy、マアメディ）」（22行目）や「私の立場（'mdy、オムディ）」について語っていることである。このような地位、ないし立場は神の慈愛（ヘセド）によるものである（25行目）。「私の歩み（ミツアディ）」が、あなたからのものである」（23行目）も同じことを述べている。なお「マアメディ」と「ミツアディ」は、韻を踏んでいる。「地位」「立場」と訳した語は、いずれも「立つ」からの派生語であるが、動詞の「立つ」は、29行目で「私の足は、平地に立っています」の箇所でも用いられている。この文は、すでに述べたように、「私」が、神によって守られた安全な場で生きていることを表現している。

2. 5. 少し長い引用になるが、次に第19欄3～14行目までを引用する。「私」はすでに「あなたの真実の会議（ソード）」に入れられているばかりではなく、天使と同じ地位にまで昇る希望について語る。

³わが神よ、私は感謝します。

まことに、あなたは塵をもって不思議を行われました。

粘土の造りもののうちに力を揮われました。感謝、感謝（?）

私は何者なのでしょう、⁴あなたの真実の会議（ソード）のうちで、あなたが私を教えられるとは。

あなたの驚くべき御業をもって、あなたは私を教え導かれました。

あなたは私の口に感謝のことばを、そして私の舌に賛美を置かれました。

⁵私の唇（から）流れ出ることばが、歓呼の場に（ある）。

あなたの慈愛を、私は歌おう。

あなたの大能を、終日私は思い巡らそう。

⁶あなたの名を、常に私はほめたたえよう。

あなたの栄光を、人（アダム）の子らのただ中で私は語ろう。

あなたの大いなる善を、⁷私の魂は楽しみとします。

私は知っています、あなたの口には真実が、

あなたの手には義が、あなたのはかりごとには⁸あらゆる知が、

あなたの力にはあらゆる大能が、そしてあなたのもとにはあらゆる栄光があることを。

あなたの怒りによって、あらゆる打撃の裁きが、

⁹しかしあなたの善によって大いなる赦しがあります。

あなたの慈しみがあなたのお気に入りの子らすべてにあります。

まことに、あなたの真実の会議のうちで、あなたは彼らを教えられました。

¹⁰あなたの驚くべき秘義によって、あなたは彼らを教え導かれました。空欄。

あなたの栄光の故に、あなたはひとを背きの罪から浄化されます。

（それは）¹¹あなたに対して、あらゆる嫌悪すべき穢れと不実の罪責から¹⁰自らを聖化するためです。

¹¹（それは）あなたの真実の子らと〔共なる〕共同体に入るためです。

また¹²あなたの聖なる者たち¹¹と共なる籤（＝命運）に（連なるためです）。

（それは）塵（の中）から死者たちのうじ虫を永〔遠〕の会議へと高めるためです。

またひねくれた霊から〔あなたの〕英知¹³へと（高めるためです）。

¹³（それは）とこしえの軍勢とともに、[・・・]の霊とともに、あなたの前に地位をかためるためです。

（それは）すべて成らんとすることとともに、また知者たちとともに歓呼する共同体のうちに自らを更新するためです。

2. 6. この歌の特徴について簡潔に述べる。「私」はまず「塵」から造られた弱い存在である。「粘土の造りもの」であるとも言われる。しかし、神の導きと教えによって、私は常に神に感謝し、神を賛美する者となった。10行目の空欄の後から、「あなたの栄光の故に、あなたはひと（エノシュ）を背きの罪から浄化されます（完了形）」に続いて、動詞の不定詞で始まる構文が5回連続する。ここは「（それは）・・・するためです」のように訳した。この箇所ですば注目すべきなのは、「塵（の中）から死者たちのうじ虫を永〔遠〕の会議へと高める」（12行目）と言う表現である。これは死者の復活について語っているのであろう。13行目の「とこしえの軍勢」は、天使のことであると考えられている¹⁴⁾。したがって「あなたの聖なる者たち」（12行目）や「知者たち」（14行目）も天使の群れを指すことになる¹⁵⁾。私は、今、ヤハド共同体のなかで日々神を賛美する生活をおくっているのであるが、それはやがて天使たちとともに「あなた（＝神）の前に地位（マアマト）をかためる」という、終末論的な希望のうちに生きているからである。このような復活の約束された存在は、——その確信が強ければいっそうのこと——ある意味で、現在存在する天地が滅びさり、天国が到来する時としての終末を先取りしているものとして自己を理解することになる。

2. 7. このこととの関係で、このようなテキストを翻訳する場合の難問に直面する。動詞の時制をどのように解釈するのがよいかという難問である。第19欄の場合には、いわゆる「完了形」と「不定形」が連続しており、これにワウをとともなう「未完了形」が散見されることになる。これらの動詞を過去で訳すべきか、現在で訳すべきか、簡単には判断できない。いずれにせよ、問題の動詞の形態を過去なら過去、現在なら現在で一貫して訳すことにするときわめて不自然な訳文になってしまう。このような問題は、終末において天使たちがベリヤアルの勢力と激しく戦うことが語られている作品の場合に¹⁶⁾、いっそう厄介なことになるが、今回は扱わない。

3. 「第1集」における「私」

3. 1. 「私」は、罪と穢れの中にある被造物であるが、神に選ばれて共同体ないし会議の中に入れられた。神に贖われた共同体の一員としての私は「僕」と呼ばれる。ただし私は、まだ悪を行う可能性のある存在でもある。このような自己理解は、確固たる「私の地位」について語っている「第2集」の場合とはかなり異なっている。私はすでに神の恵みによって救われ、感謝の歌を口にするのであるが、未だ善と悪との葛藤の中に置かれているのである。まず第4欄17行目以下から引用する。ここでは「私」は、過去の罪に対して許しと憐れみを乞いながら、義なる神に向かって悪しき業からの守りを祈願する。

17あなたに [私は感謝します]、あなたが私のうちに与えられた霊によって。あなたの義と忍耐とあなたの [・・・] とを語るために、私は舌の答えを見つけましょう。18また、あなたの力強い右手の業と先祖たちの背きの罪に対する [許し] とを (語るために)。また、ひれ [伏し] て19・・・ 私の [悪しき] 業と私のひねくれた心に18対する憐れみを乞うために。19まことに私は穢れの中を転げ回りました。そして [真実の] 会議から私は、・・・しました。私は、20 ・・・に19加わりませんでした。20 ・・・義はあなたのものです。永遠にあなたの名に祝福が (ありますように)。あなたの義に [したがって、行ってください！] 21[・・・を] 20贖ってください！ 21[そして] 邪惡な者たちが消え失せますように！ 私は悟りました、あなたが選ばれた者の道を [あなたが・・・される] ことを。そして22[あなたの真実の] 21洞察によって、22あなたに対して罪を犯すことから彼を守られることを。それは、あなたの訓練によって彼に謙遜²¹を回 [復させる] ためです。そして [あなたの試] 練をもって、あなたは彼の心を・・・されました。空欄
23あなたに対して罪を犯すことから、あなたの僕を [お守り下さい！] また、すべてのあなたの好意あることばに躓くことから。[邪惡な] 諸靈に対して・・・から、強めてください、あなたの愛するすべてのことのうちに歩む

[ようにと]。また、[あなたの]憎むすべてのことを捨て去るようにと。[また、] あなたの目によいことを [行うようにと]。²⁵・・・私の腸の中で、まことにあなたの僕は、肉なる霊です。空欄。

3. 2. 第4欄25行目に「肉なる霊」という特徴的な表現が出てくるが、同じ表現が第5欄19行目にも見いだされる。ここでは罪に陥る可能性のある危うい存在としてのひとが、「女から生まれた者」「水でこねられた塵の構成物」として特徴づけられている。以下に第5欄19～23行目を引用する。

19～20これらすべてのことを理解するとは、あなたの偉大な [驚くべき業を] 評議会 (ソード) において洞察するとは、肉なる霊である彼は [いったい何者なのでしょう]。畏るべきあなたのあらゆる業のうちに、女から生まれた者とは何者なのでしょう。彼は、²¹水でこねられた塵の構成物です。・・・彼の基礎 (ソード) は、恥ずべき裸、また不浄の [源]、墮落した霊が彼を支配する。²²空欄。もしも彼が邪惡をなすならば、彼は永遠の [徴]、また代々の驚異、[すべて] 肉なる者にとっての恥辱となる。あなたの善によってのみ、²³人は義とされます。[あなたの] 大いなる慈[しみ]によって、・・・あなたの壮麗さによって、あなたは彼を栄化するでしょう。

21行目の「水でこねられた塵の構成物」という表現は、第9欄21行目、第11欄24行目にも見られ、被造物としての人間の弱さを示している。「恥ずべき裸」と訳した箇所 of 正確な意味は分からない。「恥部」を指すのであろうか、またここには女性蔑視的な表現があるのだろうか。「不浄」と訳したヘブライ語のニッダーが、元来は「月経」を意味するからその可能性は否定出来ない。ただし、クムラン文書では、ニッダーは一般的に「不浄」を意味するだけなのかも知れない。

3. 3. 人間は弱く、また危うい存在であるから、ただ「あなたの善によってのみ、人は義とされます」(第5欄22～23行目) と語られる。このように、人間の救済が問題になる所では、常に神の義が問題になっていることには、十分な注意をはらう必要がある。第4欄20行目の「義はあなたのものです」

も罪からの救済を基礎づけている。同様の表現は、第6欄15行目以下では、神の選びと悪しき者の滅びに関連して用いられている。

「まことに、あなたこそは義なる方、あなたが選んだ者たちはみな真実です。全ての不正と〔邪〕悪とを、あなたはとこしえに根絶されます。そして、あなたの全ての業の目の前で、あなたの義が啓示されます」(第6欄15～16)。

このように神の義が人間の救済を基礎づけるという思想は、「感謝の歌」全体を通して見られるものであって、クムラン共同体の教えの中心にあったと考えられる。「共同体の規則」でも以下のように述べられている。「彼(=神)の真実の義によって、彼は私を裁き、彼の大いなる善によって私のすべての咎のためにあがない、彼の義によってひと(エノシュ)の不浄と人(アダム)の子らの罪とから私を浄め、神に向かってその義を、いと高き方に向かってその輝きを讃えさせて下さる」(「共同体の規則(1QS)」第11欄14～15)。なお、世界の創造における神の義の働きや、聖霊との関係などについては、後述する。

3. 4. 第8欄の13行目には「義の地位」という表現が出てくる。先に考察したように「第2集」では「私の地位」は確固不動の希望に生きる信仰的立場を意味していたが、ここでは「あなたとの契約の真実にしっかりと留まり」「あなたに仕え」ようとする「私」の決意を語る文脈に出てくるように思われる。この箇所は、テキストが相当破損しているために確かなことは言えないが、一応このように解釈出来そうである。第8欄10行目以下を引用する。

¹⁰[聖]なる霊によって・・・・・・そして、出来ない・・・・。¹¹[あなたの]聖なる霊は、・・・・天と地に満ちる。・・・・あなたの栄光が満ちる。・・・・

¹²そして、私は知っています、あなたの好意によって、ひとに・・・・をあなたは増やして下さいました。・・・・万物におけるあなたの真実・・・・

¹³そして義の地位[・・・・][・・]しないようにとあなたが彼に任じた・・・・。・・・・の全てのものへの躓き・・・・¹⁴これら全てのことを私は知

っていますので、私は舌の答えを見いだすでしょう。ひれ伏して、[憐れみを乞う] ために・・・私の背きの罪の [故に]、また・・・の霊を求めるために、¹⁵また [あなたの聖] なる霊によって強められるために、またあなたの契約の真実にしっかりと留まるために、また真実と全き心をもってあなたに仕えるために、また・・・を愛するために。

3. 5. 第6欄8行目以下からは、新しく一つの作品が始まっているものと推定される。ここでは「私」は神に近づけば近づくほど、罪から遠ざかり、神を愛するようになり、また共同体に敵対する欺瞞的な人々に対してはますます熱心に反対するようになるのだと語る。

⁸[私はあなたに感謝します]、主よ、[あなたの] 僕の心に（あなたは）英知を授けられました。⁹(それは) これら [全] てを悟ら [せるため]、また・・・させるためです。また、邪悪な行いに対して、自制するためです。¹⁰あなたの御意志を選びとる者たちを、みな、義[をもって]⁹祝福するためです。¹⁰[また]あなたの愛する[すべてのものを愛するため、]そして¹¹[あなたの憎む] ¹⁰すべてのものを嫌悪するためです。¹¹そしてあなたの僕をあなたは悟らせる・・・ひとの・・・まことに、[・・・の] 霊に応じて、¹²善と邪悪とを・・・彼らの仕業を彼らに [知らしめるために]。そして私は、あなたの英知によって知りました。¹³まことに、ひ [と] に対するあなたの御好意によって、・・・あなたの聖なる霊。こうしてあなたの英知へとあなたは私を近づけられます。¹⁴私は近寄るにつれて、私は全ての邪悪を行う者どもと欺瞞的なひとびとに対して熱心に反対しました。まことに、あなたに近寄る者はみな、あなたのことば (=口) に反抗しません。¹⁵あなたを知る者はみな、あなたの言葉をねじ曲げません。まことに、あなたこそは義なる方、あなたが選んだ者たちはみな真実です。全ての不正と¹⁶[邪] 悪とを、あなたはとこしえに根絶されます。そして、あなたの全ての業の目の前で、あなたの義が啓示されます。空欄。

¹⁷そして [私] は、あなたの大いなる善によって知りました。誓約をもって、あなたに罪を犯さないようにと、¹⁸また、あなたの目にあらゆる悪しきこと

を行わないようにと、¹⁷私の魂に対して決心しました。¹⁸そしてこうして、私の評議会の全てのひとびとの共同体に入れられました。¹⁹その洞察にしたがって、私は彼に近づきましょう。彼の譲り受ける分の大きさにしたがって、私は彼を愛しましょう。私は、悪しき者には顔を挙げません。私は「邪悪な者の賄」賂を認めません。²⁰私は、あなたの真実と財産とを、あなたのあらゆる正法と賄賂とを取り違えはいたしませ[ん]。そうではなくて、・・・[に応]じて・・・²¹[私は] 彼を[愛します]。そして、あなたが彼を遠ざけるのに応じて、それだけ私は彼を嫌悪します。空欄。²²あなたの契[約から]²¹転じた[者は、あなたの真実の] 評議会に、私は入れません。空欄。

神に近づくとは、具体的には「誓約」(17行目)によってクムラン共同体に入ることである(18行目)。神の愛するものを愛し、神の憎むものを憎むというような表現は、「共同体の規則」の冒頭部を連想させる。また、神に近づくことが、「近寄るにつれて」などの度合いを示すような表現と結合して語られているのは、「共同体の規則」が示しているような共同体内の序列ないし階層秩序と関係しているからであろう²⁰。「その洞察にしたがって」「彼の譲り受ける分(ナハラ)の大きさにしたがって」(19行目)は、いずれも序列と関係する表現であると思われる²¹。19行目の「私は、悪しき者には顔を挙げません」は、直訳である。「顔を挙げる」は一般的には「顧みる」の意味であるが、ここでは日本語の「顔を立てる」のように迎合的な態度を取ることを意味するのであろう。19行目以下の「財産」と「賄賂」への言及は、一般的に富の誘惑に対して述べたものであろうか、それとも何かある出来事に対して語っているのであろうか。

3. 6. 第4欄17行目では、「あなたが私のうちに与えられた霊」が問題になっていた²²。同様の表現は第8欄19行目にも見られるし、第8欄20行目では、私が聖霊によって浄められると語られる(後述)。第6欄8行目以下でも13行目で「聖なる霊」が問題になるが、残念ながらテキストの毀損によってその働きについては不明である。しかし、この作品では、「霊」よりも「僕の心」に対して神から与えられる「英知」の方が重要である(8行目)。「私

は、あなたの英知によって知りました」(12行目)「あなたの英知へとあなたは私を近づけられます」(13行目)とあるように、この英知が、元来は神のものであるとされていること、神の英知が人間の認識を可能にするとされていることは、非常に興味深い。

「英知」と訳したヘブライ語ビーナーは、動詞「分ける (byn)」からの派生語であって、旧約では人間の知的活動に関して用いられている(拙訳の「箴言」では「分別」と訳した)。旧約のビーナーについて調べてみると、箴言での用例が最も多く、合計14回ある。まず旧約の知恵文学の特徴をよく示す用法として、実生活において役立つ「分別」の意味で用いられている場合がある(箴言23章4節)。箴言全体についてみると、1～9章の比較的遅い時代のテキストでの用例が目立っており、「知恵(ホクマー)」「教訓」などと並行して用いられることが多い。ヨブ記での用法も箴言の場合とよく似ている⁴⁾。このようなビーナーには、やや抽象的な宗教的観念としての性格があることが否定出来ないが、実践的知恵としての性格も失ってはいない。例えば箴言8章の擬人化された知恵が「私」として語っている場面でのビーナーの用法は以下のようにになっている。「私には、助言と成功が、私、私には分別と力がある。私によって、王たちは統治し、君主たちは義しいことを決定する」(箴言8章14～15節)。ここでのビーナーは、政治的な判断力を意味しており、成功の観念とも不可分である。この点で伝統的な知恵の教えの枠から何らはみ出してはいない。箴言でビーナーが神認識と関連する用法はあるが(9章10節)、ここではこの語は「ヤハウエへの畏れ」と詩的並行関係にある。

旧約において、ビーナーが神から授けられる特別な知恵の意味をもつと考えられる用例は、イザヤ書とダニエル書の2箇所が存在する。

その上にヤハウエの霊が留まる。これは知恵と分別(ビーナー)の霊、思慮と勇気の霊、ヤハウエを知って畏れる霊である(イザヤ書11章2節)。彼(=ガブリエル)は私に語って説明し、「ダニエルよ、お前に悟り(ビーナー)を授けようとして、こうして出て来たのだ」と言った(ダニエル書9

章22節)。

イザヤ書のメシア預言での用法では、ビーナーは「ヤハウエを知って畏れる」ことと並行しているから、旧約的な知恵の伝統に従っているとも言える。また、この場合にもビーナーは内容的には人間の政治的能力と関係する。ダニエル書9章22節の場合には、ビーナーは天使を介して神に選ばれた賢者ダニエルに授けられる。その内容は、終末に関する秘義であるから「感謝の歌」の用法に極めて近い。但し、このビーナーはあくまで人間のものであって、神のビーナーではない。

「感謝の歌」の場合には、「あなたのビーナー」つまり神の英知が繰り返し問題になる（第5欄8行目、第7欄15行目、第9欄21行目など）。しかもこの英知は、神の好意¹⁶を受ける（第6欄13行目）神に選ばれた特定の人間だけに認識可能とされる。「秘義」との関連でビーナーが問題になる箇所が見られることが、このことを示している（第5欄8行目、特に後述の第9欄21行目）¹⁷。なおこのようなビーナーの性格は、言うまでもなく「感謝の歌」全体を通して見られるもので、「第1集」に限られるものではない。但し、「私は知る」と「あなたの英知によって」との組み合わせは「第1集」に3回出現するが（第6欄12行目、第7欄15行目、第9欄21行目）、「第2集」以下には現れないようである。

3. 7. 次に取り上げる第8欄16～28行目においては、伝統的な申命記的神観が見られるとともに、万物の創造に関連して、「義人の霊」の救済が予定されている（18行目）と述べられていることが注目される。またここには、神の義、神の好意、聖霊による浄化というクムラン共同体の神学を特徴づける用語が出てくる。

¹⁶ 主よ、あなたは讃えられよ！ その計〔画〕は偉大、その行為は豊か、万物はあなたの業です。見よ、あなたは・・・に慈愛を施そうと決められました。あなたの慈しみの霊とあなたの栄光の・・・をもって、あなたは私を憐れんで下さいます。義はあなたのものです。まことに、あなたは〔これら〕

すべてのことを行われました。¹⁸義人の霊をあなたが記録して下さったことを私は知っていますので、私は[あなたの]好意に応じて私の掌を浄化することを選びました。そしてあなたの僕の魂は、あらゆる¹⁹不義の業を¹⁸忌み嫌いました。¹⁹そして私は知っています、あなたの他に誰も義しくはないことを。そして私は、あなたが[私に]与えて下さった霊によって、あなたの顔を和らげます。²⁰(それは)あなたの慈[愛]を、[あなたの]僕のもとで[とこしえ]に至るまで貫徹させるため、あなたの聖なる霊によって私を浄めるため、あなたの慈愛の偉大さにふさわしく、あなたの好意の中に私を近づかせるためです。[...]そして²¹私とともに(?)...²⁰するために²¹...あなたを愛する者たちのために、またあなたの[命]令を守る者たちのためにあなたが選んで下さった[あなたのお]気に入り の地位...。²²あなたの前に、永[遠に]...は、あなたの僕の霊と、...のすべての業と混ぜられ[ないように]。²³...そして、あなたの契約の掟からの躓きとなるいかなる打撃も彼の前で[起こら]ないように。まことに、...²⁴あなたの顔。私は[知っています、あなたは慈しみ深い神、]憐れみ深く、怒[る]こと遅く、慈愛と真実に富み、そして背きの罪を赦す方、...²⁵そして、...と、信実と全き心とをもってあなたに立ち帰る、[あなたの命]令を守る者たちと[...たち]に、[災いを(下すことを)]思い直す。...²⁶あなたに仕えるために、あなたの眼によいことを[行うために]、あなたの僕の顔を退けないで下さい。[あなたの]仕え女の息子を...しな[いで下さい]。...²⁷...私はあなたのことばの故に近づきました...²⁸...

3. 8. 16行目の毀損部にはおそらく「あなたの僕に」のような語が存在したのであろう。義人の救いは、ここではあまり明確には述べられていないが、天地創造の時から神の計画と決定によるとの思想を認めてよいだろう。19行目の「あなたの他に誰も義しくはない」と訳した箇所では、動詞 *šdq* が用いられているが、この動詞の解釈と関連して正確な文意を読み取ることは難しい。「あなたから(離れては)誰も義であることはできない」と訳すことも可能である⁽²⁴⁾。このように解釈すれば、ここには神の義が、義人の救済を

基礎づけるという思想が明確に見られることになる。

24節以下に表現されている神観についてもひとこと述べておく。ここには出エジプト記34章6節以下や詩篇145篇8節に見られるような申命記的神観が表明されているように見えるが、厳密に考察すると多少の変更を受けている。25節の冒頭に「思い直す」と訳した動詞 (*nhm*) が見られるが、伝統的な申命記的定式に「(下そうとしていた) 災いを思い直す」の一句を加えたのは、ヨエル書2章13節が最初であって、これをヨナ書4章2節が引用したと考えられる(ヨナ書の場合、定式が「私は知っている」で導入されていることにも注意せよ)。この一句は、神に立ち帰る者には、すでに神によって決定されているかに思われた裁きとしての災いが撤回されることを語っている。ここには神の自由の思想がある⁵⁾。従って、クムラン共同体の思想として一般に認められている予定説は、決して機械論的、ないし運命論的な決定論と同一視されてはならないだろう。このこととの関連で、神の予定によって救済が決定されている「私」の場合にもなお、「あなたの契約の掟からの躓き」(23行目) が起こる可能性が存在するのであって、それ故に常に神の慈愛を賛美しつつ、神の慈愛のうちに生かされることを祈願するのである。

3. 9. つぎに掲げる第9欄5行目以下においては、神が知恵をもって世界万物を創造する前に、神がすべての業を知ったことを述べる。天体の運行の法則が定められたことは、神による時の支配との関係で特に重要となる。歴史はすべて神によって計算されたままに起こることが明確に述べられるが、世界の終末に関しては暗示されるだけではっきりとは語られていない。空欄のあとの21行目以下では、詩人の思考の流れは、このような神の「秘義」に向き合っている「私」の罪深さと穢れへと向かう。ここには、神の恩寵と人の罪の自覚の間に成立する弁証法的な関係が見られる。

⁵⁾そして威[力]の源泉・・・その計画は偉大、・・・無数。そしてあなたの熱心は、⁶⁾・・・の前に・・・。正法をもって怒ること遅い。[そしてあなたは、] あなたの全ての業において義しい。⁷⁾あなたの知恵をもって、永遠に、・・・[あなたは案配した]。彼らを創造する前に、永遠に至るまで、

彼らの[全ての]業をあなたは知った。[あなたなくしては、]万物は造られ
[ず]、あなたの意思(ラツォーン)なしには知られない。あなたは⁹全ての
霊を形成した。そして・・・彼らの全ての業には、正法^{9a}。空欄。

そして、あなたは、¹⁰あなたの栄光のために⁹天を張った。¹⁰あなたの御意思
のままに、[その中にある]全てのものをあなたは案配した。また、¹¹彼ら
が[あなたの聖]なる御使いとなる¹⁰前に、彼らの掟にしたがう力ある霊風
を、¹¹彼らの支配領域における永遠の霊風として、彼らの秘義のための光体
[を]、[彼らの]軌道にしたがう星々[を]、[また]彼らの働きにしたがう
[あらゆる嵐を]、彼らの務めにしたがう流星^{11a}と稲妻と[を]、また、¹³彼
らの望みにしたがって設計された倉[を]、・・・彼らの秘義にしたが
う・・・[を案配した]。空欄。

¹⁴あなたの力によって、あなたは地を創造した、海と淵々とを・・・あなた
の知恵をよって、彼らの・・・[を]定めた。またそれらの中にある全て
のものを、¹⁵あなたの意思にしたがって案配した。・・・あなたが世界
の中に形成したひと(アダム)の霊のために、永遠のあらゆる日のため、¹⁶と
こしえの諸世代のために、・・・にしたがって。・・・また彼らの時節に。
あなたは彼らの務めを彼らのあらゆる世代に割り当てた。また、裁きを¹⁷そ
の定められた時に、・・・の支配のために・・・代々に亘り。また彼らの報
いの訪れは^{18a}、¹⁸彼らへのあらゆる打撃とともに・・・そしてあなたは、
それを彼らの全ての子孫に代々永遠の数にしたがって、¹⁹永久に全ての年
に¹⁸割り当てます。¹⁹また、あなたの知識の知恵をもって、彼らの運命を、
²⁰彼らが出現する¹⁹前に決めました。²⁰すべてのことは、[あなたの御意]思
にしたがって[起]こります。そしてあなたなしには、(何も)成し遂げら
れません。空欄。

²¹これらのことを、あなたの英知によって私は知りました。まことに、あな
たは、驚くべき秘義に向かって私の耳を開きました^{21a}。しかし、私は水と混
ぜられた粘土の造りものです。²²恥の基、穢れた泉、不法の炉、罪の建物、
誤謬の霊、分別のないひねくれ者、²³義の裁きに縮み上がる者です。知られ
なければ、何を私は語りましょう。物語られなければ、(何を)私は聴かせ

ましょう。万事は、²⁴あなたの前で記念の尖筆^例によって刻み込まれています。永久にいたるまで、また永遠の年々の数えられた変わり目にいたるまで、それらの（＝年々の）あらゆる時節において。²⁵それらはあなたの前から隠されておらず、また失われておりません。ひとはその罪をいかに語る事が出来るでしょう。また、その不法に対していかに抗弁できるでしょうか。²⁶義なる裁きにたいして不義なる者が何と応えられるでしょうか。あなた、あなたにこそ、全ての義なる業の知識は（あるのです）、また真実の奥義（ソード）が。しかし、人の子らには不法な務めと欺瞞の業が（あるのです）。

注

- (1) クムランの住人をエッセネ派のような既知のグループと安易に同一視しようとする傾向に対しては、K・ベルガー著、土岐健治監訳『死海文書とイエス』教文館（2000年）、51頁以下の実に切れ味の鋭い批判を見よ。ベルガーによるとクムラン共同体を「宗派」ないし「分派」（Sekte）と呼ぶことも、後1世紀にはそもそも「正統」が存在しなかった以上、不適切である。したがって、この研究ノートにおいては、「共同体の規則」等の文書の思想傾向を表現するのにしばしば使用されてきた「分派的文書（sectarian document）」という用語は使わないで、「クムラン的文書」と表現することにする。クムラン教団の性格やその起源に関する論争としては、ハーシェル・シャンクス編、監修池田裕、高橋晶子／河合一充訳『死海文書の研究』ミルトス（1997年）の第3～6章を参照せよ。特に「ダマスコ文書」とカライ派の関連について述べている第6章のハーシェル・シャンクスの考察は興味深い。
- (2) 「感謝の歌」を特にクムラン的文書として扱うことには問題はない。しかしながら、このような文書を生み出したクムラン共同体を「修道院的な共同体」とみなしてよいかどうかは、極めて問題である。ベルガーによると、厳格な規則をもつ修道院的な共同体を考えるのは、一種のアナクロニズムであって、十分な根拠がない。ましてやこのような共同体には設立

者がいなければならないと考えるのは、無批判に伝統的な西欧の思考パターンに従った結果に過ぎない（上掲書、55頁）。研究の初期における「義の教師」およびクムラン共同体に関する議論については、H. Bardtke, *Literaturbericht über Qumran. X. Der Lehrer der Gerechtigkeit und die Geschichte der Qumrangemeinde*, *Theologische Rundschau* NF 41 (1976) 97-140. を参照。最近の研究では、Hakan Ulfsgard, *The Teacher of Righteousness, the History of the Qumran Community, and our Understanding of the Jesus Movement: Texts, Theories and Trajectories*, in: *Qumran between the Old and New Testaments*, JSOTS 290, Sheffield (1998) 310-346. を参照。いわゆる「義の教師」のヘブライ語は、モーレー・（ハツ）ツェデクであって、これが「義について教える教師」の意味か、「義なる教師」の意味なのかについては論議されている。ともかく彼は、歴史的人物であろう。なお、「義の教師」が、明確に登場する文書としては、「ダマスコ文書」（CD1, 11; 20, 32）「ハバクク書注解」（1QpHab 1, 13; 2, 2; 5, 10; 7, 4; 8, 3; 9, 9; 11, 5）「ミカ書注解」（1QpMic 10, 6）など極めて少数の文書が数えられるだけである。客観的に見ればクムラン文書全体の中で義の教師が果たしている役割は極めて小さい。

- (3) イエレミヤスが、義の教師の作品であるとして「感謝の歌」から取り出したものを以下に列挙する。G. Jeremias, *Der Lehrer der Gerechtigkeit*, SUNT, 2; Göttingen (1963). 但し、配列はシュテゲマンによる巻物の復元法にしたがう〔後述の注(7)参照〕。旧式の欄ナンバーは（ ）内に示しておく。X, 1-19. 31-39; XI, 1-18; XII, 5-XIII, 4; XIII, 5-19; XIII, 20-XV, 5; XV, 6-25; XVI, 4-40 (II, 1-19. 31-39; III, 1-18; IV, 5-V, 4; V, 5-19; V, 20-VII, 5; VII, 6-25; VIII, 4-40). このような見解は、翻訳が紹介されているチャールズワースの以下の論文にも示されている。ジェームズ・H・チャールズワース編著／山岡健訳『イエスと死海文書』三交社（1996年、原文は1992年）の「第5章〈子〉としてのイエスと〈庭師〉としての義の教師」の特に217頁以下「義の教師の自己理解」の箇所を見よ。ここでは、「義の教師の自己理解を反映している最も印象的な実例」として「感謝の歌」第

8 欄 (XVI, 4-11に相当) が引用されている。

- (4) この問題に関しては、古いものとして中沢洽樹による「感謝の詩篇 (1 QH) 概説」が参考になる。『死海文書』日本聖書学研究所編、155頁以下。天使に関しては、Maxwell J. Davidson, *Angels at Qumran*, JSPS 11 (1992) 187-211. 参照。
- (5) すでに中沢洽樹がこのことを指摘。前掲書 (= 注 4) 154頁。
- (6) 中沢洽樹／吉田泰の翻訳 (= 注 4、159頁以下) の底本としては、1954年に Jerusalem で出版された E. L. Sukenik によるものを使っている。今回はこれを参照することが出来なかった。現時点では特にスケニク版を参照する必要はないと判断される。
- (7) 巻物の復元方法については、Hartmut Stegemann, *Methods for the Reconstruction of Scrolls from Scattered Fragments*, in: *Archaeology and History in the Dead Sea Scrolls*, JSPS 8 (JSOT/ASOR Monographs 2), Sheffield (1990) 189-220. 参照。ハルトムート・ステージェマン著「死海文書断片をつなぎ合わせる」ハーシェル：シャンクス編、監修池田裕、高橋晶子／河合一充訳『死海文書の研究』ミルトス (1997年) 351～362頁に要点が述べられている。さらに、Johann Maier, *Die Qumran-Essener: Die Texte vom Toten Meer, Band I*, UTB 1862, Reinhardt (1995) 45ff. の「感謝の歌」のドイツ語訳の前に述べられている解説を参照。ここには旧配列と新配列の対照表があって便利である。
- (8) Florentino Garcia Martinez and Eibert J.C. Tigchelaar, *The Dead Sea Scrolls Study Edition Vol.1*, Brill (1997) 146ff.
- (9) 区分に関しては、<http://ccat.sas.upenn.edu/rels/225/jaffe3.htm> において公開されている Jacob D. Jaffe, *A Close Reading of the Hodayot and a Theory of their Authorship* を参照した。
- (10) *The Dead Sea Scrolls. Electronic Reference Library*, Oxford University Press (1997)
- (11) M. Wise/ M. Abegg/ E. Cook, *The Dead Sea Scrolls. A New Translation*, Harper San Francisco (1996) 86ff.

- (12) 詩の構成に関しては、Bonnie P. Kittel, *The Hymns of Qumran*, Society of Biblical Literature. Dissertation Series 50 (1981) 33ff. による分析を参照。なお、テクストの解釈に際しては、適宜 Svend Holm-Nielsen, *Hodayot. Psalms from Qumran*, Aarhus (1960) と Johann Maier によるドイツ語訳（＝注7）49ff. を参照した。これらの著書からの参照箇所には、特に必要がない限り注を付けない。
- (13) 英知については、後述の3.6.を参照。
- (14) Maxwell J. Davidson, *Angels at Qumran*, JSPS 11, Sheffield (1992) 198ff.
- (15) 地上の共同体の賛歌が天使たちの歌と一体になっているとも解釈出来る。Moshe Weinfeld, *Normative and Sectarian Judaism in the Second Temple Period*, T&T Clark International (2005) 48f. を参照。
- (16) 「感謝の歌」第11欄など。
- (17) ヘブライ語 *nwh* の用例は、「感謝の歌」ではこの1箇所だけである。「謙遜」の訳語が適切であるのかどうかについては、検討を要する。
- (18) クムラン共同体の組織については、蛭沼寿雄・関根正雄著「死海文書の全容」『死海文書』日本聖書学研究所編、山本書店（1963年）23頁以下参照。
- (19) Svend Holm-Nielsen（＝注12）222参照。ヘブライ語ナハラーはここでは、土地とは関係がない。
- (20) 「共同体の規則」には「二つの霊」に関する教えがあるとされている。「感謝の歌」の場合に「霊」がどのような仕方で捉えられているかについては、今回は詳しい考察を断念する。Robert W. Kvalvaag, *The Spirit in the Human Beings in some Qumran Non-Biblical Texts*, in: *Qumran between the Old and New Testaments*, JSOTS 290, Sheffield (1998) 159-180. 参照。
- (21) 旧約聖書翻訳委員会訳『旧約聖書IV』岩波書店（2005年）の補注・用語解説の45頁「ふんべつ」の項目を見よ。
- (22) 「好意」「お気に入り」などと訳されるヘブライ語ラツォーンの語義については、先に論文として発表した。「箴言における釈義上の問題(4)」『キリスト教論藻』第35号（2004年）1頁以下。

- (23) M・ヘンゲル著／長窪専三訳『ユダヤ教とヘレニズム』日本キリスト教団出版局（1983年）357頁は、「エッセネ派の神学」にとって *yd', škl, byn* などの動詞を含めて知識、悟り、知恵などの概念が重要な意義を持っていたと述べる。さらに366頁以下では、「信仰の知性化」について論じられ、「賢者は神の秘密の歴史的計画と人間の死後の運命に関する洞察を得ている」と述べている。特定の秘義的な知識が救済の条件になるとするなら、ある意味で後代のグノーシスの教説を先取りしていることになる。
- (24) M. Wise/ M. Abegg/ E. Cook (=注11) 90.
- (25) ヨナ書の思想に関しては最近のものとして、J・ブレンキンソップ著／樋口進訳『旧約預言の歴史』教文館（1997年）295頁以下の論述がすぐれている。なおヨナ書における引用に関しては、京都大学大学院の修士論文、勝村弘也著「ヨナにみられる神学的論議」（1973年）において考察したことがある。
- (26) ヘブライ語のミシュパートは、箴言において「裁き」でも「公正」でもなくて「正法」と訳すべき用例が多く存在する。この場合は、何が正しいかを認識するひとが歩むべき道の意味でミシュパートが概念化されていたのであるが、ここでは神が世界創造にあたって万物に定めた「法」の意味になる。
- (27) ヘブライ語ジッキームは旧約では箴言26章18節で用いられているだけであり、普通「火矢」と訳される。ラビ文献での用法から「流星」と訳す。Svend Holm-Nielsen (=注12) 22参照。
- (28) 応報について述べていると解釈される。
- (29) 「開く」と訳した動詞 *glh* は「啓示」を表す用語。
- (30) 「記録するためのインク」の意味かも知れない。この巻物はいかにもインクで記されているからである。